

「名寄市立総合病院改革プラン」の進捗状況について

平成22年11月

「名寄市立総合病院改革プラン」は、国のガイドラインに基づいて平成21年3月に策定され、「経営の効率化」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」の3つを改革の視点としています。この中で経営の効率化に関しては、平成23年度までに経常収支の黒字化を図り、健全で安定した経営基盤を確立させることを目標としています。

計画初年度の平成21年度病院事業決算では、財務に係る経営指標として数値目標を定めた6指標のうち、4指標については、患者数減少の影響により、目標を達成できない結果となりましたが、経常損益では、前年度と比較して約1億1,500万円赤字額を圧縮することが出来ました。また、外部有識者で構成される病院運営委員会からは、「不採算部門を抱えている中で、達成できなかった項目もあるがほぼ達成できている内容」との評価を得ております。以下、改革プランとの比較結果及び具体的取り組み項目の進捗状況についてお知らせします。

資料 1

改革プラン数値目標と決算数値との比較

1) 財務に係る数値目標

(1) 経常収支比率 (%)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	99.7	98.2	△1.5	医業（入院）収益の減による。

・ 計算方法：経常収益 ÷ 経常費用 × 100

・ 用語説明：医業及び医業外を含めた収支の状況を表し、100%以上は単年度黒字、数値が大きいほど経営状況が良いこととなります。

(2) 医業収支比率 (%)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	96.6	94.6	△2.0	診療単価の増加分が、延入院患者減少による減収分を補えていないため。

・ 計算方法：医業収益 ÷ 医業費用 × 100

・ 用語説明：医業本来の収支の状況を表す。100%以上は黒字、数値が大きいほど経営状況が良いこととなります。

(3) 職員給与比率 (%)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	57.1	58.3	1.2	入院収益減による医業収益伸び率鈍化。

・ 計算方法：職員給与比率 職員給与費÷医業収益×100

・ 用語説明：医業収益に占める給与費の割合を表す指標。

(4) 病床利用率 (%)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	92.0	86.0	△6.0	DPC 導入による在院日数の短縮による。

・ 計算方法：年延べ入院患者数÷年間延べ病床数×100

・ 用語説明：ベッド数当りの入院患者数で、100%に近いほどベッドが効率的に利用されています。

(5) 一般科の入院診療単価 (円)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	42,790	43,007	217	DPC による効果。

・ 計算方法：入院収益÷年間延べ入院患者数

・ 用語説明：入院患者 1 日当たりの診療単価を表します。

(6) 一般科の外来診療単価 (円)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	7,355	7,867	512	DPC により、一部検査が外来に移行したことによる

・ 計算方法：一般科外来収益÷一般科年間延べ外来患者数

・ 用語説明：外来患者 1 日当たりの診療単価を表わします。

2) 公立病院としての医療機能に係る数値目標

(1) 年間延べ入院患者数 (人)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	119,720	111,988	△7,732	在院日数短縮・病床利用率減

(2) 年間延べ外来患者数 (人)

	プラン目標	決算数値	差	差が生じている理由
H21	248,534	241,860	△6,674	限られた医師数の中で入院診療を優先し、再診患者を調整する方針に変更

